

# 平成30年矢巾町議会定例会3月会議

## 代表質問会派・議員と質問事項一覧表

番号	質問会派・議員	質問事項	答弁者
1	一心会 10番 山崎道夫	1. 「まちづくり改革元年」に向けた取り組みについて	町長
		2. 教育現場における諸施策の取り組みについて	教育長
2	矢巾明進会 14番 長谷川和男	1. 目標人口3万人に向けた施策について	町長
		2. 学校施設の整備について	教育長
		3. 仮称・ひとり一改善運動制度への取り組みについて	町長
3	矢巾町政策研究会 「やまゆり会」 11番 高橋七郎	1. 矢巾町政全般について	町長
計	3会派 3名	6件	町長 4件 教育長 2件



# 代表質問通告書

矢巾町議会議長 廣田光男 殿

受付 No. 1	平成30年2月26日	午前 <del>午後</del> 9 時26分
議席番号 10 番	一心会 山崎道夫	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 「まちづくり改革元年」に向けた取り組みについて (答弁者) 町長</p> <p>高橋町長は新年度施政方針演述において、平成30年度は、第7次矢巾町総合計画の基本理念である「希望と誇りと活力にあふれ、躍動するまち やはば」の実現をめざし、まちの個性を生かし、輝き続ける矢巾町を、議員各位、そして町民の皆さまとともに「チームやはば」として心を一つにして作り上げていくため、今後とも諸施策に精力的に取り組んでいくと、意気込みを示されました。併せて持続可能なまちづくりや将来への積極的な投資と先駆的な取り組みを「まちづくり改革元年」と位置づけて取り組むことを打ち出し、更に平成30年度は「スポーツのまち」としてスポーツの振興策を人づくりの柱に加え、多様な価値観に対応したまちづくりを進めていくことを明らかにしました。</p> <p>こうした基本方針のもと今後、「チームやはば」のトップリーダーとして、さまざまな課題に立ち向かい町総合戦略の基本目標の実現に向け、諸施策に精力的に取り組んでいくと決意を新たにしている町長に対し以下について所見を伺います。</p> <p>1. 計画的な土地利用の推進と道路網整備について</p> <p>① 社会環境の変化に対応した土地利用の適切な誘導を図りながら、魅力あるまちづくりを目指して計画的な土地利</p>

用を推進していくとされていますが、今年3月末に共用開始される「矢中スマートインターチェンジ」を中心とした県道沿いと、西側の町道安庭線沿の土地利活用は人口3万人構想の実現と密接に結びつき、町のさらなる発展と活力の源になると思われま

すが、したがって、スマートインターチェンジ周辺も含めた県道沿いと町道沿いの土地利活用について、どのような構想を持っているのか明らかにされたい。

- ② 現在、都市計画マスタープランの見直しが進められていますが、地区計画対象指定区域8地区を明らかにすると共に、UターンやIターンも含め、多くの移住定住促進に向けて、雇用の場の確保が大きな課題となっていますが、企業誘致の取り組みと企業立地に向けた用地確保の方針について示されたい。また、上記8地区の中に近い将来企業立地の対象として考えている地区があるのか伺う。

- ③ 幹線道路の整備は、町道中央1号線とスマートインターチェンジ関連の交差点改良と拡幅工事を行うとの考えが述べられましたが、近年町内の道路の多くが混雑し、特に朝の渋滞はその度合いを増してきています。

今後、ますます交通量が増えていくと思われま

すが、混雑緩和と渋滞緩和は喫緊の課題となっています。安全で快適なまちづくりの観点からも、一日も早い道路網の整備が必要になっており、本町における都市計画道路整備計画を早期に具体化し、優先度を検討して、いつ頃工事に着手し、完成は何年になるなどの整備スケジュールを示すべき時に来ていると考えますが、所見を伺う。

- ④ 児童生徒が安全に安心して通学するための環境整備に力を入れることが求められていますが、通学路の整備予定箇所と延長はどの程度あるのか。また、今後の整備計画を示すと共に未整備箇所について、可能と思われる路線について朝の通学時間帯に、1時間程度の自動車通行規制を行うなどの安全対策を考えてはどうか。

- ⑤ 信号機が少なく歩道の無い町道西部開拓線の安全対策と県道昇格は長年の懸案であり、大型トラックなどの交通量が多いことから特に西部地区で生活している町民にと

って、毎日、安全安心が脅かされ、とても不安な思いをして暮らしているのが実態です。したがって信号機の設置や歩道の整備などが強く求められていますが、町としてこのような現状をどのように捉えているのか伺います。

また、県道昇格について紫波町と連携し関係機関へ粘り強く働きかけるなどの取り組みを行い、実現に向け努力すべきと考えますが、所見を伺う。

## 2. 「スポーツの町」の具体的な取り組みについて

町長は多様な価値観に対応したまちづくりを進めていくため、平成30年度は「スポーツのまち」としてスポーツの振興策に力を入れていくとの方針を新たに打ち出しましたが、町民の多くが、どのような取り組みをするのか、大いに期待し注目していると思います。

スポーツによる地域おこしや、まちづくりに取り組んでいる自治体は全国でも多いと思いますが、1つの例としてピョンチャンオリンピックにおいて女子カーリングで銅メダルを獲得した北見市常呂町の取り組みなどが良い例です。したがって、本町における「スポーツのまち」の推進に取り組む方針と、具体的な取り組みについて明らかにされたい。

## 3. 昨年の高橋町長の施政方針で、矢巾町循環バス「さわやか号」について、廃止を含めた全面的な見直しを行うと述べられていますが、来年度の予算にさわやか号の運行委託料が計上されています。また、デマンドバス検証運行委託料、デマンドバス運行システム構築業務委託料も計上されていますが、利用者が少ないさわやか号の運行について、廃止を含めた全面的な見直しをどのように行なったのか、大きな疑問が残ります。

したがって、デマンドバスの検証運行を行うのであれば、この際、さわやか号の運行を全面的に廃止し、デマンドバス検証運行の時期をできるだけ早めて、本格運行の実施に向けて最大限の努力をするべきと考えますが、所見を伺う。

質問 2

(質問事項) 教育現場における諸施策の取り組みについて  
(答 弁 者) 教育長

1. 少人数指導と選択性の取り組みについて

子どもへのきめ細やかな指導、支援の充実を図り、いじめや不登校などの未然防止や早期対応が期待されるとして岩手県教育委員会は平成30年度、1学級の上限を35人とする「少人数学級」を小学5年に拡大するとの方針が出されましたが、同時に上限40人のまま複数教員が一緒に教えるなどの「少人数指導」との選択性を導入するとの考えが出されました。また、平成31年度には小学5年と同様の形で同6年に拡大する方針で、小中学校全学年で導入されることになる。この事ですが、県教委によると、県内の小学校・義務教育学校324校の内、小学5年で36～40人の学級があるのは28校あるとのことですが、本町における少人数学級の状況と、県教委の方針を適用する学校はあるのか伺う。また、該当する学校があるとするれば、どちらを選択する考えなのか理由も合わせて明らかにされたい。

2. 県教委は平成30年度から教員の多忙化解消に向け、公立中学校の運動部や文化部などに「部活指導員」を新たに配置する方針を固めたと報道されましたが、教員の多忙化につながる部活動の拘束時間が軽減されるほか、子どもも専門的な指導が受けられるなどメリットを見込むとしていますが、本町における具体的な取り組みについて以下伺う。

- ① 競技経験のない教員が顧問を務めたり、勤務状況の改善が必要な部への配置を想定して「部活指導員」の配置希望を募っているが、本町は中学校2校に対し、どの部への配置を考えているのか。
- ② 指導に当たる頻度や時間数、費用等はどの程度になるのか。
- ③ 部活指導員の人選と起用は何を基準にして行うのか。また、配置する時期はいつ頃になるのか。

3. 県教委は平成30年度、教員の負担軽減に向け、全県立学校にタイムカードを導入し、勤務時間を客観的に把握できるようにすることで業務量に偏りが生じていないかなどを確かめ、生徒への指導に集中できる環境づくりを後押しするとしている。

また、県教委によると各市町村教育委員会の判断で小中学校にタイムカードを導入している事例はあるとしていますが、今後は小中学校を所管する市町村教育委員会に導入を促すとしていますが、タイムカードをすでに導入している他市町村の事例も参考にして、本町の小中学校においてもタイムカードの導入を図り、教員の多忙化解消の一助にするべきと考えますが、所見を伺う。

# 代表質問通告書

矢巾町議会議長 廣田光男 殿

受付 No. <u>2</u>	平成30年2月26日	午前 <del>・</del> 午後 9 時00分
議席番号 <u>14</u> 番	矢巾明進会	長谷川 和 男

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 目標人口3万人に向けた施策について (答弁者) 町長</p> <p>第7次矢巾町総合計画の基本構想において、計画目標年度である2023年度に目標とする人口を3万人と掲げておりますが、この目標人口を達成するための計画について伺います。</p> <p>① 土地利用を活用する戦略を打ち立てるべきと考えるがどうか。</p> <p>② 人口3万人の目標達成に向けて、民間企業による土地区画整理事業が必要不可欠であることから、都市計画マスタープランに明記すべきものと認識していたがどうか。</p> <p>③ 市街化調整区域における地区計画の実現を目指すため、行政と地域が一体となって取り組むべきと考えるがどうか。また、この問題を盛岡広域で取り上げて、国や県に働き掛けていくべきと考えるがどうか。</p>
質問2	<p>(質問事項) 学校施設の整備について (答弁者) 教育長</p> <p>学校教育について、児童や生徒が皆、平等な環境の中で学びができることを誰しもが願っていることではありますが、それがすべて叶うことではないと私も思っております。しか</p>

し、老朽化に伴う補修等は早急に対応しなければならないと考えておりますが、学校施設の整備について伺います。

① 去年の小学校の運動会について、大雨により徳田小・煙山小・矢巾東小の3校は翌日の日曜日に開催されましたが、不動小学校は校庭の水はけが悪く、予定していた日の3日後に開催されました。このことについて、父兄から多くの苦情が寄せられたと聞いておりますが、その状況について伺う。

② 教育施設整備基金を活用し、屋外施設についても平等な環境とするべきと考えますが、教育施設整備基金を限定的に取り崩し、本当に困っているところに手当てする考えはないか伺う。

この基金は徳田小学校の移転建築資金であるといわれておりますが、移転時期も決定できていないのが現状であります。今現在の児童たち、またこれから入学してくる児童たちに、校舎の中も外も学校施設の環境を平等にすべきではないでしょうか。

質問3

(質問事項) 仮称・ひとり一改善運動制度への取り組みについて

(答弁者) 町長

職員の皆さんの中には、日常業務において、「このようにすれば無駄がなくなり効率化が図られるのでは」と思われた方がいると思われまます。

ひとり一改善運動制度とは、職員一人ひとりが事務事業の改善策を提案し、それを所属内で実行し、効果が認められるものは職場全体で取り組んでいくというものであります。

行政事務の能率性・効率性の向上、経費の削減、収入の増加につながるほか、更なる住民サービスの向上を図ることもできます。

180名余りの職員の皆さんの力を更に結集し、仮称・ひとり一改善運動制度へ取り組まれることを提言いたしますが、町長の考えを伺います。

# 代表質問通告書

矢巾町議会議長 廣田光男 殿

受付 No. <u>3</u>	平成30年2月23日	<del>午前</del> 午後 2 時15分
議席番号 <u>11</u> 番	矢巾町政策研究会 やまゆり会 高橋七郎	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 矢巾町政全般について (答弁者) 町長</p> <p>① 日本政府は国際リニアコライダー（ILC）の誘致を国際機関に受け入れ表明をしていないが、岩手県は誘致に向けて正念場を迎えています。多くのメリットが期待できると考えられ、県はもとより県南の市町村も積極的に活動をしておりますが、盛岡広域8市町の取り組みと、特にも岩手医科大学附属病院で利用する医療機材の開発にも期待できることから、本町の取り組みについて伺う。</p> <p>② 盛岡市政調査会研修会が2月8日に開催され、盛岡広域スポーツコミッションの取り組みについての講演がありました。本町として、どのように取り組んで行く考えなのか伺う。また、盛岡南公園に岩手県と盛岡市による野球場設置の協議が始まり、34年度完成を予定していると話がありましたが、本町にとってもメリットが大きいと考えられるが、幾分か負担が伴うとしても、協議会に参加する考えはないか伺う。</p> <p>③ 平成30年1月4日から矢巾斎苑の火葬時刻が改定され、午前10時、正午、午後2時となりましたが、火葬時刻の20分前に御勤め法要が始められており、多くの町民の方から今までの時刻に行くと間に合わなかったという</p>

声が聞かれており、私も経験しました。どのような経過で、このようになったのか。また、前町長時代に岩清水コミュニティセンターで行われた地域懇談会において、火葬時刻とは御勤め法要なのか、火入れ時刻なのかとの質問があり、御勤め法要時刻との回答であったと聞いております。混乱を避けるためにも、火葬時刻とは何を始める時刻なのかを伺う。

- ④ 平成28年6月会議において観光パンフレットについて伺いましたが、その時から2年近く経過しております。進捗状況はどのようになっているのか、また、一新時期を伺う。